

# 知恩 第十三号



## 定時総会

総会日時 平成25年3月16日（土）  
総会場所 水戸市・祇園寺 客殿大広間

平成25年3月16日、平成25

年度の定時総会を行いました。ご参加の皆様には、お忙しいところ、ご出席頂きまして有難う御座いました。

総会の前に、恩光無辺の碑を参拝し、昨年、「北越戊辰戦争水戸藩戦没者慰靈祭」を行つたことを（御靈）に報告致しました。

平成24年度「昨年」は、皆様のご協力によりまして、諸行事を無事に行つたことを心から感謝申し上げます。

そして、それぞれが、強く心に残るものがあり、又、心のこもつた供養行事が出来ました事を篤く御礼申し上げます。

私は、次の事を特に申し上げたい。

第一に、

水戸市教育委員会のご尽力により、（恩光無辺の碑）の（標石柱）を、祇園寺境内に建立頂いたことあります。有難う御座いました。

又新潟戊辰戦争戦没者慰靈祭には水戸市長の式辞、及び、水戸市役所の皆様にも、お忙しい所ご参列頂きました。本当に有難う御座いました。

更に寺泊法福寺にある水戸藩家老・「佐藤図書守信近の埋葬地」の現状についてまでご心配を頂き、心から御礼申し上げます。

川上有文

第二に、

水戸徳川家の歴史遺産（西山荘、瑞龍山墓所、徳川博物館）の東日本大震災被害の復旧支援に、役員各位のご理解を頂き、寄付金を義援金として贈呈致しました。

第三に、

24年度の主たる行事である、新潟戊辰戦争水戸藩戦没者慰靈旅行に、初めて「幕末維新水戸有志を偲ぶ会」と共催にて、皆様と共に、灰爪の丘の「水戸藩諸生派戦没者の慰靈祭」を行つたことであります。

皆様のご協力により、厳粛な慰靈式を行うことが出来ました。

水戸有志を偲ぶ会の皆様に、心から篤く感謝申し上げます。

第四に、

現地・新潟の皆様の、水戸藩諸生派戦没者に対する、長期にわたる・心温まる手厚い供養に、改めて、感謝申し上げます。

お世話になつた柏崎市の皆様、本当に有難う御座いました。

本年は慰靈祭復活以降10年目、節目の年に当たります。

これからも、慰靈行事を通して、水戸藩末の歴史の真実を探求して、理解を深めて参りたいと存じます。又、多くの人々にご理解の輪が広がることを念願しております。

## 平成25年度 総会次第

## 第1号議案（24年度行事報告）

- 1 水戸藩国事殉難者慰靈式を挙行  
平成24年10月24日 新潟県柏崎市西山町灰爪669番地 灰爪の丘  
北越戊辰の役当所戦没者供養塔の前において水戸藩戦没者慰靈式を行いました  
「新潟県、戊辰戦争水戸藩殉難者を慰靈、及び、史跡見学の旅」を（幕末維新水戸有志を偲ぶ会）と共に催して行いました
- 2 総会 3月25日 祇園寺において総会を行いました
- 3 役員会 2回
- 4 事務局会 隨時・数回
- 5 会報知恩編集会議 2回
- 6 会報知恩発送 2回（第11号、第12号）
- 7 「恩光無辺の碑」の石碑が祇園寺境内恩光碑の側に建立されました  
(水戸市教育委員会により)
- 8 平成24年10月10日 除幕式を行いました
- 平成24年12月22日 徳川ミュージアム「徳川博物館」へ参り、東日本大震災被災  
(徳川博物館、西山荘、瑞龍山水戸徳川家墓所)等、復旧義援金を贈呈しました
- その他

## 第2号議案

平成24年度

## 収支決算書

24.1.1~ 24.12.31

単位・円

収入の部				支出の部			
科目	金額	内訳	摘要	科目	金額	内訳	摘要
前期繰越			25,447	慰靈法要費	51,599		除幕式費用
年度会費	140,000			経常経費	117,313		
24年度会費		140,000	会費	寺院費		10,000	会場費
寄付	8,000			通信費		40,200	郵送料ほか
費用寄付		8,000	寄付	資料費		32,533	会報ほか
新潟慰靈旅行	872,000			会議費		17,112	会議諸掛
旅行参加会費他		872,000	会費	事務費		5,218	
			寄付	雑費		5,410	
			補助金	振込料		6,840	会費
				新潟慰靈旅行費	872,000		
合計	1,020,000			合計	1,040,912		

## 次年度繰越残高

次年度繰越	前期繰越	当期入金	当期払出	当期末残	摘要		
恩光碑保存会会計	25,447	1,020,000	1,040,912	4,535			
東京貯金センター	200	189,000	189,200	0	基金と碑保存会会計へ移管		
恩光碑保存会基金	192,810	125,500	215,000	103,310	新潟慰靈費ほか 徳川M義援金		

平成24年度の 収支決算を上記のとおり報告致します  
2012.12.31 水戸殉難者恩光碑保存会

会長 川上有文 印  
会計 岡見円礼 印

## 監査報告

監査の結果、帳票・決算書とも適正であることを認めます

平成25年3月16日

水戸殉難者恩光碑保存会

監事 宇留野光 印  
監事 松葉尚志 印

### 第3号議案（25年度行事計画）

- 1 予定 水戸藩国事殉難者慰靈法要を祇園寺において行う予定  
日時 平成 25 年 9 月の彼岸中

2 総会 1回 (3月 16 日) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

3 役員会 2回予定

4 事務局会 隨時予定

5 会報知恩編集会議 2回予定

6 会報知恩作成発送 2回予定

7 その他

講話

平成25年・NHK大河ドラマ「八重の桜」放映中であります。  
此の事に関連して、講話ををお聞きしました

演題 「戊辰戦争と水戸藩諸生党」  
講師 前澤瑞穂副会長  
講師 阿部富八先生

第4号議案

平成25年度

取支予算

25 1 124

25-12-21

110

収入の部				支出の部			
科目	金額	内訳	摘要	科目	金額	内訳	摘要
前期繰越			4,535	経常経費	100,000		
年度会費	160,000			寺院費	10,000	総会場費	
25年度会費		160,000	2000x80	通信費	25,000	会報送料等	
法要参加	150,000			資料費	25,000	会報印刷等	
参加費		150,000	5000x30	会議費	10,000	会議諸掛	
				事務費	10,000	事務諸掛	
				雜費	10,000		
				振込料	10,000	会費送料	
				慰靈法要費	160,000		
				祇園寺	70,000		
				供花	20,000		
				その他	70,000		
合計	310,000			合計	260,000		

## 第5号議案 任期満了に伴う役員改選の件

顧問	顧問	顧問
高橋丈夫	川上有文	大森信英
前澤瑞穂	蔭山二郎	初代
大森信男	平戸吉衛	大森信弘
朝比奈泰紀	一澤勝男	祇園
深谷益美	綿引正明	宇留野光
信木義通	弓削徳衛	松葉尚志
岡見瑞江	岡田口 寛	富田滿彌
朝比奈泰夫	大森泰夫	鶴殿長昭
市川達也	富田泰孝	宇留野光

第5号 語第  
「役員改選の件」は  
平成25年3月16日、次の通り  
決まりました



◆ 北越戊辰戦争戦没者慰靈と史跡  
見学の旅の報告

新潟旅行実行委員会

今回は、新潟県内の戊辰戦跡を、長岡市、柏崎市に訪ねた。

新潟慰靈旅行参加者

今回の現地慰靈旅行は、水戸殉難者恩光碑保存会と幕末維新水戸有志

を偲ぶ会との共催により、平成24年10月23・24日の2日間、新潟県内の戊辰戦跡を訪ね、戊辰戦没者の慰靈行事を行いました。

◆ 戊辰戦争とは

慶応4年明治維新の時、新政府軍と旧幕府側の戦いであり、鳥羽伏見・北越・会津・函館が激戦の地となつた最大の国内戦争であつた。大政奉還後形勢逆転、徳川慶喜公は朝敵となり、水戸藩諸生派も追われる立場となり、水戸を脱出、会津新潟方面に向かつた。

慶応4年、奥羽越列藩同盟の一翼を担つて、会津軍と共に新政府軍と戦つたのは、水戸藩諸生派市川勢の人々である。水戸藩「本園寺勢・尊攘派」は、天下分け目の国内戦の最中に、諸生派追討の軍を新潟方面に出したが、直接交戦はなかつた。

北越を撤退した市川勢は、会津若松城・防衛戦で新政府軍と激戦。会津落城直前に水戸に帰り、弘道館に布陣。水戸城本園寺勢と交戦したが敗れ、千葉県八日市場（現・水戸藩追討軍と激戦の末、壊滅した。

◆ 長岡市寺泊 法福寺を訪ねる、此處に水戸藩家老 佐藤図書守信近のお墓があり、お参りしました。埋葬地には墓碑銘は無く、小さな石が4個・目印に置いてあるだけだつた。寺には立派な戒名が残つてゐると言ふ。

◆ 長岡市寺泊 法福寺を訪ねる、此處に水戸藩家老 佐藤図書守信近のお墓があり、お参りしました。埋葬地には墓碑銘は無く、小さな石が4個・目印に置いてあるだけだつた。寺には立派な戒名が残つてゐると言ふ。

（川上）

◎ 10月23日 「強風雨」 天候悪化のため当初予定を変更して、

◆ 長岡市 河井繼之助記念館を見学、稲川明雄館長より戊辰戦争について、詳しく述べました。

◆ 「水戸藩士は略奪などしない礼儀正しい一団だった」と聞く。 弥彦グランドホテルに宿泊する、早朝からの旅の疲れを癒やしました。

◆ 日本海側を北上し、弥彦村に到着、弥彦神社・拝殿に上がり正式参拝する。「神酒を頂く。その後、舞殿にて、飛田電雲斎先生の水府新刀流居合剣武術等・奉納演舞を見学しました。

◆ 長岡市 山本五十六記念館を見学、連合艦隊司令長官であり長岡市出身の稻川館長さんの説明を聞く。

◆ 水戸市、水戸市議会、柏崎市、長岡市から、代表の方のご参列を頂きました。

◆ 出雲崎には、市川勢が本陣とした代官所跡に「碑」が立つていた。柏崎市西山町灰爪の丘に建立された「北越戊辰之役当所戦没者供養塔」の前において、本旅行の主行事である「水戸藩戊辰戦没者の慰靈式典」を厳肅に行いました。

◆ 24日11時30分、水戸市、水戸市議会、柏崎市、長岡市から、代表の方のご参列を頂きました。

◆ 出雲崎には、市川勢が本陣とした代官所跡に「碑」が立つていた。

◆ 24日11時30分、

◆ 24日11時30分、</

## ◎皆様の声

新潟慰靈旅行実行委員会

「まとめ」

◆慰靈式典時の水戸市長の式辞全文  
北越戊辰の役 水戸藩殉難者慰靈式が執り行われるにあたりまして謹んで哀悼の誠を捧げます

幕末から明治にかけて 日本では多くの人々が国や藩の将来を案じそれぞれの立場において行動を起こしました

水戸藩においては 次第に藩内の対立が表面化し 多くの尊い命が失われていったことは 誠に残念なことであります

しかし 約百四十年のときを超えて 今日 こうして両派の御子孫の方々がこの地で亡くなられた人々を悼むために共に集い 慰靈式を行うことができましたことは まさしく

ときを超えて魂に邂逅を見る思いであります 本市の歴史にとつても誠に意義深いことであると考えております

真剣に考え 生きた郷土の先人たちを偲び その歴史を後世へ伝えていくことについて 一層努力してまいります

また ここ柏崎におかれましてもはからずも新政府軍と旧幕府軍が戦火を交える激戦地となつたことで

おだやかに暮らしていた人々へ多大な被害を及ぼすことになつてしましました それにもかかわらず この

地で亡くなられた戦没者を手厚く埋葬し 供養してくださいさつた柏崎のみなさま方の温情に 胸が熱くなる思いでございます 心より感謝申し上げます

最後に この地で亡くなられた戦没者の方々のご冥福を心よりお祈り申上げ 御挨拶とさせていただき

平成二十四年十月二十四日

水戸市長 高橋 靖

## ◆茨城新聞コラムより。

水戸の歴史が変わる時…

そんな思いを抱きながら、ある慰靈の旅に参加した。

明治維新的戊辰戦争で「奥羽越列藩同盟」に加わって戦死した水戸藩士

らの足跡を、新潟県柏崎市と長岡市に訪ねた。

## ◆長岡市 河井繼之助記念館の稲川明雄館長の説明の中に、

北越戊辰戦争において、水戸藩士

は略奪などしない立派な態度であった。という

## ◆柏崎市文化財保護審議委員の尾崎忠良氏の説明より、

藩の為の将来を想い、一身を捧げられた灰爪の丘・墳墓の地でのお話の最中には、

「未だに無名戦士のお墓として、灰爪の丘に眠る水戸藩士」を思うと、

万感胸に迫る想いが致しました。

これから、水戸の皆様方に恥じない

ける「幕末維新水戸有志を偲ぶ会」が共催。

▽天狗派の慰靈などを行つてきた

偲ぶ会が、諸生派の慰靈に加わるという画期的な一步だつた。慰靈の途中、現地の人からは「水戸藩士は略奪をしない礼儀正しい一団だった」という声を聞く。

▽明治維新で敗者となつた諸生派は、悪いイメージが伝わるが水戸藩士としての気高さは両派に共通していた。

▽そういう武士たちを育てた「弘道館」を世界遺産に登録しようと、水戸市は栃木県足利市や大分県日田市との連携を深めている。

歴史を多面的に見直す地殻変動が起きつつあるよう感じた。(秀)

◆水戸というと、多くの人々は、すぐ、天狗党と言いますが、諸生派の中にも立派な人が居られたことを、私は忘れない、という

◆柿畠の丘の厳肅な慰靈式が思ひだされます。また、水戸藩士が礼儀正しかつたことを今も語り継がれているのは、さすがだと思います。この旅行は、本当に勉強になりました。

◆眞の諸生の姿を探り、同じ想いで天狗をも調査したいものです。

そもそも、同じように、御三家水戸藩の人々でしたから。国を思う心は同じでしよう。

◆漏れ聞いたところ、初めて、2会の合同慰靈祭であつた由、今後とも、開かれますよう祈念します。

◆今回の、企画をお進め頂き、新潟両会が健全に、かつ活発に活動が続けられましたよう祈念します。

にて無事に慰靈祭を挙行できましたのも、会の皆様はじめ、関係各位の熱意とご尽力の賜物と心より感謝申し上げます。

多くの人々からご感想の声を頂き、その一部を紹介させて頂きました。有難う御座いました。(事務局)

前澤瑞穂

大河ドラマ「八重の桜」の影に隠れた「諸生派」の会津籠城、婦女子救済作戦

この事実が明らかにされた。  
阿部氏のご厚意と、更に、会津「白虎隊記念館」館長・早川廣中氏らの  
ご賛同を得て、水戸の来栖平造氏が  
発起人となり、平成12年5月、会津

「白虎隊記念館」の前に、

平成25年の大河ドラマ「八重の桜」がNHKテレビで放映されている。

内容はご存知、会津藩の戊辰戦争における一女性のたくましい生き方である。中でも、会津籠城戦の場面は勇壮感と悲愴感が混然とし、幕末から戊辰に散った水戸の多くの殉難士の最期を想い、胸を熱くしている人も多いと思う。

この会津籠城戦に、「諸生派」が活躍していることは、あまり、知られていない。勿論、ドラマには出てこないが、この籠城戦で「諸生派」は婦女子救済という大きな働きをしているのである。諸生派がドラマの主人公「山本八重」らと共に戦ったことも充分に推察され、このドラマへの関心がいつそう高まってくるに違いない。

この「諸生派」の奮戦ぶりは、会津の「宮崎十三八」氏（故人）によつて書き残されており、会津を救つた水戸の勇士を讃え、感謝の意がこめられている。

なお、この書は、会津出身のひたちなか市に住む「阿部富八」氏から諸生派後裔代表のもとに届けられ、



「戊辰戦争の明治元年8月23日の朝、土佐藩兵を主力とする西軍が、怒涛の如く、鶴ヶ城の追手門に迫つた時、北越戦線から会津に戻つていた諸生党が駆けつけ危機を救つた。その後、城内の各門の防御と、場外各地で会津藩兵と共に奮戦する。ここに、諸生派諸士の籠城戦に於ける婦女子救済の武勲を讃え、その雄志に光を当て、更に、畏敬の念を深め、この碑を建立する」

### 水戸藩の「大政奉還～明治元年」事件簿

慶応2年		徳川慶喜	15代將軍となる	
慶応3年		徳川慶喜	大政奉還 → 王政復古	
慶応4年		3月10日 諸生派	水戸を脱出し北越へ向かう	北越戊辰戦争
〃		3月12日 本圀寺派、尊攘派・本圀寺勢	諸生派追討のため水戸に到着	
〃		3月21日 藩主	徳川慶篤 水戸に帰る	
〃		4月5日 藩主	徳川慶篤 水戸城にて病死(37歳)	
〃		4月15日 前将軍	徳川慶喜 水戸に帰る(弘道館に滞在)	
〃		5月28日 天狗残党	武田金次郎 水戸に帰り、諸生派の屋敷、家族を襲う	さいみ党事件
〃		7月19日 前将軍	徳川慶喜 水戸を離れ、静岡に移住する	
〃		8月23日 諸生派	北越からの帰途、会津に入る	会津戊辰戦争
〃		9月5日 諸生派	会津城に入る。会津主戦軍は場外で西軍と激戦中	
明治元年	(9月改元)	9月22日 諸生軍は	城内には老兵と婦女子のみ。	
〃		9月29日 会津藩主	城内に侵入しようとする西軍と防戦し、婦女子の救済に当たった	
〃		10月1日 諸生派	会津軍将 佐川官兵衛の指揮により、会津軍と共に場外戦に参加	
〃		10月2日 諸生派	その最中 会津落城を知る	会津を離れる
〃		10月6日 諸生派	松平容保 西軍に投降を宣言	
			凡そ300水戸に帰る	
			水戸城内に入れず、弘道館に布陣する	
			城内の本圀寺派と激突する	
			戦死、自刃者多数を出し敗北する	弘道館の戦い
			(市川、朝比奈、覧ら凡そ100人)	
			水戸を脱出、千葉方面にむかう	
			八日市場(千葉県匝瑳市)で、水戸からの追討軍(本圀寺派他)の	
			攻撃を受け奮戦するも、戦い利あらず、壯絶な最期を遂げる	
			ここに水戸藩門闇諸生派の終焉となる。	八日市場の戦い

郷土史家 前田恒春氏

慶応4年3月10日、水戸を離れた諸生党・市川勢は新潟を経て4月17日、出雲崎陣屋を接收して本營とし、奥羽越列藩同盟成立直前まで、北越方面の鯨波・宮川・灰爪・石地に戦い多数の同志を失った。

5月22日、加茂会議により、「奥羽越列藩同盟」が成立すると、同盟軍の一翼を担つて、日本海に近い、荒谷から塩ノ入、上の山、岩方等、信濃川を結ぶ保星（防御線）に布陣して、激しい戦闘を繰り広げた。この保星は、河井繼之助の長岡城奪還を支援し、西軍を北越から駆逐するもので、会津藩一ノ瀬要人を総帥とし総力を結集したものであつた。作戦は河井繼之助の奇襲攻撃によつて成功し、同盟軍も長岡城に入場したが、城内にあつた弾薬の大爆発によつて混乱し、西軍の猛攻撃、西軍の新潟港の占領、河井繼之助の負傷が重なつて、長岡城が再び落城である。

市川勢はじめ水戸藩兵の与板付近の攻防は、本与板・原・与板見張場・馬頭見張場付近に7月29日までの記録がみられるが、8月1日前後、地蔵堂を経て三条に撤退し、次いで、会津領に後退して、戦場は、鶴ヶ城攻防戦に移つていった。

#### ◆諸生派の会津籠城戦について、

郷土史家「加比礼三（前田恒春）」氏が阿部富八氏から紹介された資料に基づき、「諸生党的軌跡を追う」の中に詳細に記録している。その一部を要約して紹介したい、

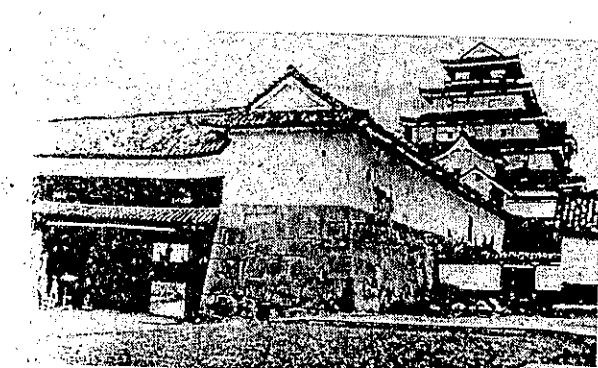
水戸「諸生党」会津落城に奮戦（諸生党的軌跡を追う）

藩主をはじめ全軍が出撃して、わずか8、9名の老兵と婦女子が留守を守る本城に、どこを通りぬけたか、板垣退助が率いる土佐藩の一隊が、年貢町方面から南門に向かつて殺到してきた。この時である。後に、新島襄の夫人となる「山本八重」らは、男装して銃をとり防戦した。

城の石垣が高くて二の丸、本丸に入り込むのは困難と見た板垣勢は、土星の所から、攻めこもうと濠伝いに移動を始めた。其の時、諸生派・市川勢の一隊が駆けつけて交戦となつた。やがて、西郷頼母に率いた西軍の板垣退助は、米沢藩を説いて、会津藩に帰順を進めさせた。22日、藩主・容保は、降伏書を米沢藩を通して提出し、22日に開城を決意した。

「山本八重」は開城の無念さを次のことであつた。（中略）

この頃、城内は混乱を極めていた。婦女のある者は銃で防戦し、ある者は傷で血に染まつたままの手で、戦傷者の手当てに当たつていた。



第17図 若松城（鶴ヶ城） 一明治7年撮影  
(会津若松市立図書館提供)

常照寺に仮埋葬した。

この状況下、市川三左衛門は、戸への帰還を決意する。9月4日、喜徳公（水戸斉昭の19男、会津藩主・松平容保の養子、後に、守山藩主平家を継ぐ）に、お目通りを許される。喜徳公は、水戸勢の奮戦に感謝し、杯を賜り、手厚く饗して決別の言葉を述べた。

一旦、水戸に帰還を決意した水戸勢だが、会津・佐川官兵衛と合流して、長州・山県有朋軍を迎撃するため、高田に転進する。この戦いも連勝で、敵方からの分捕り品も多く、その中に、水戸・天狗党的物と思しき物もあり、彼らの一部が西軍に加わつてゐることを知つた。

この頃、城内は混乱を極めていた。婦女のある者は銃で防戦し、ある者は傷で血に染まつたままの手で、戦傷者の手当てに当たつていた。

この悲壮な戦いを目の当たりにした西軍の板垣退助は、米沢藩を説いて、会津藩に帰順を進めさせた。22日、藩主・容保は、降伏書を米沢藩を通して提出し、22日に開城を決意した。

福島県会津若松市  
会津若松城

水戸市史より  
若松城（鶴ヶ城）

明治7年撮影

（会津若松市立図書館提供）

水戸の諸生派は、同志、会津の戦況と開城ま近を知り、会津を離れ、戸に帰つて再起を決意した。会津・佐川官兵衛とも別れを告げ、高田から間道伝いに水戸へ向かつて、行進を開始した。

徳川ミュージアムの

事務局

東日本大震災被害復旧支援について

平成23年3月11日東日本大震災

により、徳川ミュージアム関連施設（徳川博物館、水戸徳川家瑞龍山墓所、西山莊）は甚大な被害を受けました。

本会・水戸殉難者恩光碑保存会の会員の先祖・門閥諸生派の人々は水戸藩開府以来、長い間、藩政に尽力し歴代の藩主に仕えて参りました。水戸藩では幕末期には不幸な時期がありましたが、明治維新以降、時代は変わりました。

徳川ミュージアムからも支援要請があり、大震災による水戸徳川家歴史遺産の被害をそのまま見過ごすことは出来ず、過日、役員会に諮り、義援金を贈呈することを決議致しました。

緊急の事でありますので、今は、本会の役員の皆様に協力をお願ひ致しました。役員各位におかれましては、自宅の被害で大変な状況にもかかわらず、義援金ご協力を頂き心からお礼申上げます。

義援金は、諸般の事情により、正副会長が平成24年12月22日に、水戸市見川の徳川博物館へ参上し、贈呈致しました。

事務局

恩光無辺碑の水戸市史跡指定申請に関連して その後

水戸市祇園寺に建立されている「諸生党慰靈碑」は、水戸市民の、特に、諸生派にゆかりのある人々にとって、唯一の「魂のよりどころ」である「恩光無辺の碑」であります。

平成23年10月20日水戸市教育委員会を通じ、水戸市文化財保護審議委員会に史跡指定を申請致しました。その折、平成24年度末までには結論を出すとのお話を承っていました。水戸市文化財保護審議委員会では審議は進んでいるのでしょうか

結論はでたのでしょうか  
指定は承認されたのでしょうか

本会としては大きな関心を持つて、その結果に注目しています。

是非、ご承認下さいます様、改めてお願い申し上げます。

本件に関しては、平成21年6月、水戸市議会において、「天狗党と諸生派の歴史的位置づけと現在の対応について」質疑があり、市教委からは

「これからは差別なく平等に対応する」との市教委の議会答弁がありました。

四月二十四日、水戸市斎場にて葬場祭・告別式が行われました。

会費納入のお願い

本会は、会員の会費のみで運営しております。新年度を迎えたので、会費納入をお願い致します。

寄付のご報告

役員各位より寄付金を頂き、災害義援金として徳川ミュージアムに贈りました。

参考資料

水戸市史より 「鶴ヶ城写真」  
水戸市長の新潟式典時・式辞全文  
茨城新聞コラム  
新潟旅行感想文より抜粹 各氏  
諸生党の軌跡を追う 前田恒春氏

訃報

本会・初代会長・大森信英先生は平成二十五年四月十九日永眠なされました。

先生は、水戸藩諸生派殉難志士を慰靈する「水戸殉難者恩光碑保存会」を再興し、初代会長として殉難諸士の供養・慰靈に努め、後進の指導と本会の発展に尽力されました。

茲に、ありし日を偲び、謹んで、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

川上有文

本件に関しては、平成21年6月、水戸市議会において、「天狗党と諸生派の歴史的位置づけと現在の対応について」質疑があり、市教委からは

「これからは差別なく平等に対応する」との市教委の議会答弁がありま

★編集後記

★戊辰戦争は新潟から会津に移りました。年号も慶応から明治となる。本年は、NHK 大河ドラマ・「八重の桜」放映中であります。

これまで明治維新について、勝者の立場からの物語りが大多数でしたが、今回は、敗者の視点からの放映であると言われています。

いままでと違つて、より歴史の真相に近い放映が見られるのではないかと思います。

敗者の中にこそ、眞実があるのでないでしょうか。

★訂正します

知恩第12号3頁2段右から4行目 東京大学教授・南摩先生の名前が、間違つていました。南摩綱記を南摩綱紀に訂正します。

水戸殉難者恩光碑保存会 別名水戸藩國事殉難志士を慰靈する会

平成25年5月15日発行 編集顧問 前澤瑞穂

編集委員 川上有文  
岡見円礼  
朝比奈泰紀編集委員 深谷益美  
印刷・作成 印刷・作成

(弔辭)

初代会長 大森信英氏を悼む

水戸藩・戊辰「諸生派殉難士慰靈碑・保存会」初代会長・大森信英先生の御靈に、謹んで、哀悼の言葉を捧げます。

先生は、教育者として、また、歴史家として、大きな功績を残されました。先生のご他界は、本会に限らず、各界の損失であり、誠に、惜別之情に耐えません。

かつて、水戸藩は、幕末から、明治初年にかけて、新しい時代創りをめぐり、各派の対立、抗争により、多く殉難士を出しました。先生の大森家のご先祖も、その、水戸藩士の、一人です。

すでに、幕末、明治も遠くなり、新しい時代創りに、命をかけた、水戸藩士の存在すら、薄くなりつつあります。

先生は、こうした、乏しい郷土の歴史観を憂え、率先して、初代会長になられ、本会の創設、発展に、尽くされました。

関係者一同、感謝申しあげます。

先生が、最も尊敬なさつていました「室田義文」翁は、明治元年「弘道館の戦い」で、諸生派の銃弾を受け、負傷しました。その後、明治新政府の役人となり、晩年は水戸に帰り、元、藩士の、敵、味方、身分、勝敗の区別なく、その供養と、慰靈碑建立に努力されました。水戸市、祇園寺境内に建つ、諸生派、殉難士の「恩光無辺ノ碑」もその一つです。

先生は、この、室田翁のご遺志に則り、かつての、派閥、身分、勝敗にかかわりなく、すべての殉難士に対して、深く畏敬の念をもち、その供養と、慰靈に努められました。関係者一同に代わって、厚くお札を申しあげます。

今年は、NHK大河ドラマ「八重の桜」が放映されています。この会津籠城作戦に、水戸藩諸生派が参加し、城内の多くの婦女子を救出しました。平成十二年に、県内に住む、会津出身者の方や、会津史談会有志の方のご協力で、会津白虎隊記念館の前に、「水戸藩・諸生党・鎮魂碑」を建立しました。この碑建立に当たり、先生の並々ならぬご努力が推測されます。と同時に、先生の、広く、県外にまで及んだ絆の深さに、脱帽します。

先生、長い間、ご指導ありがとうございました。安らかに、お休みください。

哀悼と、感謝をこめて、弔辞と致します。

平成二十五年四月二十四日

前澤瑞穂